

# 水溶性園芸肥料 OK-Fシリーズ

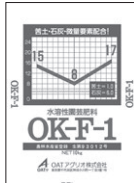
●包装 各10kgポリ袋入り

近年施設栽培農家の技術向上および肥培管理技術の多様化などにより、必要な時期に適切な成分バランスの肥料を必要量施肥するというニーズが高まっています。

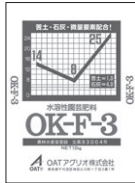
OATアグリオは、長年にわたる養液栽培での肥培管理技術をもとに、施設栽培の追肥専用肥料「OK-Fシリーズ」を開発しました。「OK-Fシリーズ」はタイプの異なる商品群の中から、作物、使用時期、使用方法などに適した成分バランスのものを選んでいただける水溶性園芸肥料です。

## 【OK-Fシリーズ一覧】

OK-F-1  
生第 93012 号



OK-F-3  
生第 93004 号



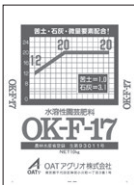
OK-F-9  
生第 93010 号



OK-F-12  
生第 93038 号



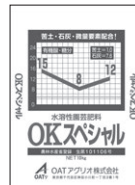
OK-F-17  
生第 93011 号



OK エース  
生第 72419 号



OK スペシャル  
生第 101106 号



## [OK-Fシリーズの成分組成]

製品名	保証成分 (%)						配合成分 (%)	
	窒素全量 (TN)	アンモニア性 窒素 (AN)	硝酸性窒素 (NN)	水溶性 りん酸 (WP)	水溶性 加里 (WK)	く溶性 苦土 (CMg)	カルシウム	
							(Ca)	(CaO)
OK - F - 1	15	(-)	(8.5)	8	17	1	4.55	6.0
OK - F - 3	14	(-)	(8.6)	8	25	1	2.93	4.0
OK - F - 9	15	(1.0)	(6.5)	15	15	1	3.64	5.0
OK - F - 12	15	(1.6)	(5.4)	20	15	1	2.27	3.1
OK - F - 17	12	(1.0)	(6.2)	20	20	1	2.25	3.1
OKエース	14	(8.5)	(5.5)	8	8	2	-	-
OKスペシャル	15	(-)	(7.5)	8	12	1	5.46	7.6

OK-Fシリーズには、水溶性ほう素(WB)0.1%、水溶性マンガン(WMn)0.1%、鉄(Fe)0.2% (OKエースのみ0.05%)が配合されています。

## [OK-Fシリーズの特長]

1. 3要素の成分を作物、栽培型、生育ステージに合わせて選択できます。
2. 苦土、石灰、各種微量元素も配合された総合要素入り肥料なので、育苗期から収穫期まで安心して使用できます。微量元素欠乏対策にも有効です。
3. 硝酸性窒素を多く含んでいるので、低温期にも優れた肥効が現れます。
4. 土をいためることが少ないので連用できます。
5. 土壌条件により発生しやすい要素欠乏症の予防と早期回復に有効です。
6. 作物によって施肥体系を元肥中心から追肥中心に転換できます。

## [OK-FシリーズのEC値]

EC (ds/m)

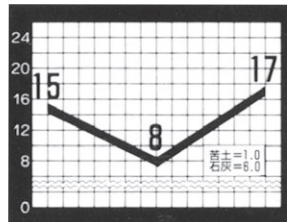
製品名	100倍	200倍	500倍	750倍	1000倍	2000倍	4000倍
OK - F - 1	9.21	4.75	1.99	1.50	1.02	0.60	0.34
OK - F - 3	9.21	4.75	1.99	1.50	1.02	0.60	0.34
OK - F - 9	10.50	5.41	2.27	1.71	1.16	0.68	0.39
OK - F - 12	13.08	6.74	2.82	2.13	1.44	0.96	0.48
OK - F - 17	12.16	6.27	2.63	1.98	1.35	0.79	0.44
OKエース	8.01	3.96	1.68	1.28	0.90	0.48	0.29
OKスペシャル	8.76	4.52	1.89	1.42	0.97	0.57	0.32

※水道水 (EC=0.10dS/m、pH=7.01) で希釈

※pHは原水水質によって異なるため、参考値です

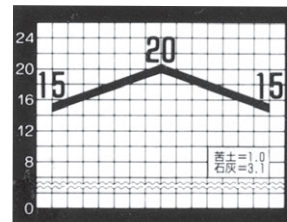
## [OK-Fシリーズ]

OK-F-1



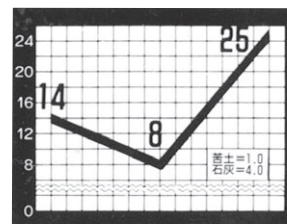
- ・作物の養分吸収バランスに近い組成を持つ肥料です。
- ・生育に必要な成分を過不足なく与えることができます。
- ・果菜、花卉、果樹などの品質向上に役立ちます。

OK-F-12



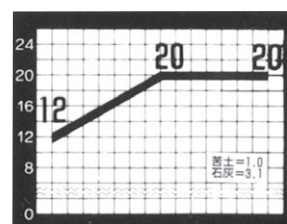
- ・窒素、加里に対して、りん酸を多く含んだ肥料です。
- ・野菜、花卉、果樹などの品質向上に役立ちます。
- ・各種園芸作物の育苗用肥料に適します。

OK-F-3



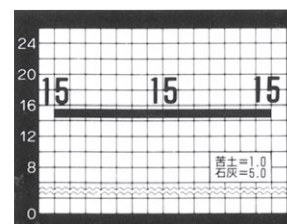
- ・ナス科の養分吸収バランスに近く、加里が多い肥料です。
- ・ナス、トマト、ピーマンなどの品質向上や増収がはかれます。
- ・きく、カーネーションの生育期の追肥にも適します。

OK-F-17



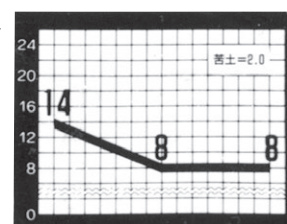
- ・りん酸、加里を多くし、窒素を少なくした肥料です。
- ・果菜、果樹などの、果実肥大や品質向上に役立ちます。
- ・花卉の花芽分化用の追肥として適します。
- ・各種園芸作物の育苗用肥料として適します。

OK-F-9



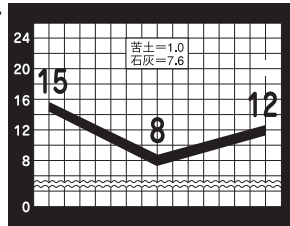
- ・三要素を均一に含んだ汎用性の肥料です。
- ・各種園芸作物の育苗期から収穫期まで幅広く使えます。

OKエース



- ・窒素に対してりん酸、加里を少なくした肥料です。
- ・加里過剰対策用の肥料として適します。
- ・果菜、葉菜などの葉色向上に役立ちます。

### OKスペシャル



- ・石灰の強化で、尻腐れ等の生理障害に効果が期待できます。
- ・果菜、葉菜類等の初期生育促進対策の肥料として使用できます。

### [OK-Fシリーズの使用適期表]

○適 ◎最適

製品名	育苗期	果菜類		葉菜類	花卉		果樹		備考
		前期	後期		前期	後期	前期	後期	
OK - F - 1	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	
OK - F - 3			◎		◎	◎			加里強化対策
OK - F - 9	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
OK - F - 12	◎	○	◎		◎			◎	
OK - F - 17	◎	○	◎			◎		◎	
OKエース		○	○	◎	○	○	◎		加里過剰対策
OKスペシャル	○	◎	○	○	◎		◎		初期生育促進対策

## [作物別の標準施肥量]

作物	10アール1回当り施肥量	施肥方法
きゅうり	5～10kg	果実収穫期 5～7日ごと
トマト	5～10kg	着果後に重点施肥
なす	5～10kg	果実収穫期 7～10日ごと
ピーマン	5～10kg	果実収穫期 7～10日ごと
すいか(露地)	10～20kg	2番着果後施肥
メロン(露地)	10～20kg	2～3回に分施
いちご	4～8kg	開花結実期に重点施肥
葉菜類	5～10kg	生育期に1～2回
きく	4～8kg	生育期 7～10日ごと
ばら	4～8kg	
カーネーション	4～8kg	
果樹類	10～20kg	果実肥大期に重点施用

## [OK-Fシリーズ使用方法]

### 1. 育苗

#### ① 土耕育苗

OK-Fシリーズの500～1000倍液(水100ℓに100～200gを溶かす)を調製し、5～7日間隔で灌水施肥してください。

#### ② 養液育苗

ヤシガラ、砂、モミガラくん炭、パーライト、ウレタン、ロックウール育苗にはOK-Fシリーズの500～1000倍液を湛液し、はじめは水位を1～2cmに保持し、育苗中期以降は根の伸長を良くするため乾湿をくりかえし生育調整してください。

### 2. 追肥

#### ① 原液をうすめて施肥する場合(果菜・花き)

10a当り4～10kgを5～10倍に溶かして原液とし、これを100倍以上に希釈して灌水施肥してください。(肥料が完全に溶けるまでに約15～20分かかります)

#### ② 粉末施肥する場合

希釈装置のない場合には、株間又は畦間へ置肥もしくは穴肥として施肥し、あとで灌水してください。(この場合、粉末が直接、根部や茎葉にかからないよう注意してください)

#### ③ 灌注施用

300倍液をタンクで調製し、500ml/株を株元に動噴で打込み施用してください。

#### ④ 標準濃度液を施肥する場合(カーネーション等)

500～1000倍液をタンクで調製し、ベンチ栽培床へ灌水施肥してください。

#### ⑤ 葉面散布する場合

1000～1500倍にうすめて散布してください。

## **【使用上・保管上の注意】**

1. アルカリ性資材とは混用しないでください。
2. 肥料以外の用途には使用しないでください。
3. 幼児等の手の届かない場所に保管してください。
4. 開封したまま放置すると吸湿しますので、袋の口を密封してください。
5. 直射日光をさけ、冷暗所で荷崩れが起こらないように保管してください。
6. 使用後は洗眼やうがいをし、皮ふに付着した場合は洗い流してください。
7. 眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
8. 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
9. 石灰硫黄合剤と混合すると、有毒なガスが発生するおそれがあり、危険ですから混用しないでください。
10. この肥料は保管条件・期間により変色することがあります。変色があっても肥料効果、成分、溶状、pH等には問題ありませんので、通常どおりご使用ください。
11. 葉害発生のおそれがあるので、りんごには葉面散布での使用はしないでください。
12. 粉じんを吸引しないように作業時はマスクを着用してください。
13. 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。